

# 北海道社会保障学校 in 小樽

# 速報

2010年9月5日

発行:北海道社保学校実行委員会

## 道社保学校に271名が参加し、学び合う

### 勇壮な「おたる潮太鼓」で幕開け

残暑が続く9月5日、「北海道社会保障学校 in 小樽」が小林多喜二を輩出し、労働運動の草分けの地、小樽市で開催されました。

午前中の記念講演には会場いっぱい249名が参加し、午後は、4つの分科会に211名分かれて学び、議論しました。学校全体の参加者は271名でした。



### 小樽市から福祉部長が歓迎の挨拶

開校式では、学校長の黒川一郎道社保協会会長が挨拶。4月に小樽社保協ができ、社保学校が開催されることに感激の気持ちとお礼の言葉を述べ、小林多喜二をはじめとする小樽の歴史や社保学校の歴史をひもときました。中井現地実行委員長からは、小樽の労働運動などの歴史と歓迎の言葉が語られました。

続いて、来賓として小樽市中村浩福祉部長（山田克磨市長代理）が歓迎と連帯の挨拶を行いました。



黒川一郎会長



中井秀紀現地実行委員長



中村浩小樽市福祉部長

### 記念講演で、地域再生への道を学ぶ

記念講演は、岡田知弘氏（京大大学院経済学研究科教授・自治体問題研究所理事長）が、「地域主権改革で、くらしや医療・福祉はどうなるのか～地域再生への道」と題して講演を行いました。

氏は、自公政権時代の構造改革路線を振り返り、自民党の「地方分権」と民主党政権の「地域主権」は同根・同一であること。その地域主権の危険性や社会保障分野に及ぼす害悪について解明し、「構造改革」への対抗運動としての道筋を示しました。



岡田知弘教授



## 《講演会の感想文から》

- 政府のめざしている方向を聞いて、愕然とする気持ちになりました。私たちは、どう考え、どうするべきかの方向が示されたことでホッとしました。一人一人が大事にされる社会・地域でなければなりません。政治の力は大きいから、政治家や企業の思うままにされかねない。選挙の力！！
- わかりやすく、学ぶことが多かった。小樽市民として、どのような活動に参加し、協力していくか、政治が変わるといふことでは、何がどう変わっていけば良いのか。なかなか判りません。ともかく、福祉がよい方向になって欲しいと思います。

## 明日からのたたかいに向けて行動提起

吉岡事務局長が「北海道社保協からの行動提起」を行い、「地域からの草の根の運動で、社会保障の改善・拡充のたたかいをすすめよう」と呼びかけました。当面する運動の具体化として下記の6点を呼びかけました。

- (1) この秋から年明けにかけて、出される法案やとりまとめに対して機敏なたたかいを組み、法案化阻止の運動をすすめよう
- (2) 一方で、民主党が掲げた参院選マニフェストの積極的政策の実現を迫ろう。
- (3) 保険料の軽減や窓口負担の軽減・無料化など権利としての社会保障の拡充にとりくもう
- (4) 現場・自治体に対する改善や拡充を求める交渉・要請を強めよう
- (5) 道や自治体に対する改善や拡充を求める交渉・要請を強めよう
- (6) 国保・介護など住民のくらしといのちを守る要求をいっせい選挙の争点に押し上げて運動にとりくもう

## 午後は、4つの分科会で活発に議論

4分科会に211名が参加、熱気ある議論に！

### 第1分科会 国保の実態と運動の実践

参加者数～54名



### 第2分科会 心の介護をめざして

参加者数～51名



### 第3分科会 貧困とのたたかい

参加者数～39名



### 第4分科会 相談員養成講座

参加者数～67名



社保学校への参加ご苦勞様でした。知を力にたたかいにとりくみましょう。  
準備にあたられた小樽社保協の皆さんありがとうございました。